

事務事業名 家庭教育事業

出力日：令和07年03月18日

キーコード：1017

施 策：	20	生涯学習・社会教育の推進	財務コード	01090602-14-540
基本事業：	01	ニーズに応じた学習機会の充実	担当部	教育部
基本事業の 成果指標	生涯学習講座の充足度 市公式ホームページ（生涯学習情報ページ）アクセス件数 生涯学習情報（市広報紙）利用割合		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和46年度 ~		新規・継続	継続	会計区分		実施計画		
1．対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2．手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
乳幼児・児童・生徒を持つ保護者			平成31年度より、家庭教育事業がより親しみやすいものとなるよう「はぐくみキャンパス」という通称を設け、家庭教育学級 つばみカフェ 公開講座 講師派遣の4本立てで実施している。 学習内容は子育てに関すること、親自身の課題に関すること、豊かな市民性を身につけることを学ぶ。 家庭教育学級は各小・中学校（吉木・山家小除く）に家庭教育学級を設置し、学級運営は保護者が主体的に行っている。 つばみカフェは乳幼児の子を持つ保護者向けに学習会を実施し、小学校の家庭教育学級に繋げている。 公開講座は日中の学習会に参加できない保護者を対象に実施している。 講師派遣は子を持つ保護者が地域の中で家庭教育を学べるよう派遣する。 。周知方法は、家庭教育学級は募集チラシを各小・中学校に配付、その他は市広報・HPに掲載している。						
3．意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）									
親として子どもの発達段階に応じた家庭教育に関する学習を行うことで、家庭の持つ教育力の向上を図る。									
4．成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	目標
			実績	実績	当初	要求	計画	計画	
学級生数		人	161	195	400	400			400
延べ参加者数		人	348	610	2,000	2,000			2,000
5．コスト									
事業費		計	千円	445	688	1,009	1,024		
		国	千円		0	0	0		
		県	千円		0	0	0		
		地方債	千円		0	0	0		
		その他	千円		0	0	0		
		一般	千円	445	688	1,009	1,024		
正職員人工数		人工	0.1	0.1	0.1				
正職員人件費		千円	773	782	802				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	1,218	1,470	1,811	1,024			
6．成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
●あがっている ○どちらかといえばあがっている ○あがっていない（停滞・低下）		状況 学級生数及び延べ参加者数ともに増加した。 要因 開催場所や学習会の回数をコロナ禍前と同様に実施できたため。 それぞれの学級の運営スタッフが、公式ラインやSNSを活用し、学級生を増やす取組を行ったため。 家庭教育学級の卒業生などで構成する家庭教育支援チームを発足し、つばみカフェの企画運営や、託児スタッフとして関わってもらうことで、多くの保護者が参加することができたため。							
7．評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	あり	類似事業として「乳幼児家庭教育学級」を各保育所に開設しており、保護者会との連携をとりながら、各学級で年間3回程度学習会を開催している。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								
8．改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				■改善方向性 ●維持 ○見直し ○廃止 ○事業終了					
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
年間スケジュールの見直し等、参加者の負担を減らす努力をすることや、学級生が参加しなくなるような内容を企画し、より多くの保護者が参加できるよう検討と内容の充実を図る。									
■事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）				■備考・特記事項 or 進行管理欄					
家庭教育学級は平成30年から連絡会を廃止し、学級生の負担軽減を図り学級運営マニュアルを作成したことで自主的な運営になった。乳幼児家庭教育学級は4保育所に設置。その他の乳幼児を持つ保護者の学びの場として「つばみカフェ」を令和元年度から家庭教育学級生と開催し家庭教育学級へ繋げている。				学習の成果と課題を明確にし、次年度の活動の指針とするために紙媒体で文集「あゆみ」を作成していたが、電子化し市のHPに掲載し、募集に繋げている。					